

発行日： 令和2年 3月17日

発行者： 今村証券株式会社

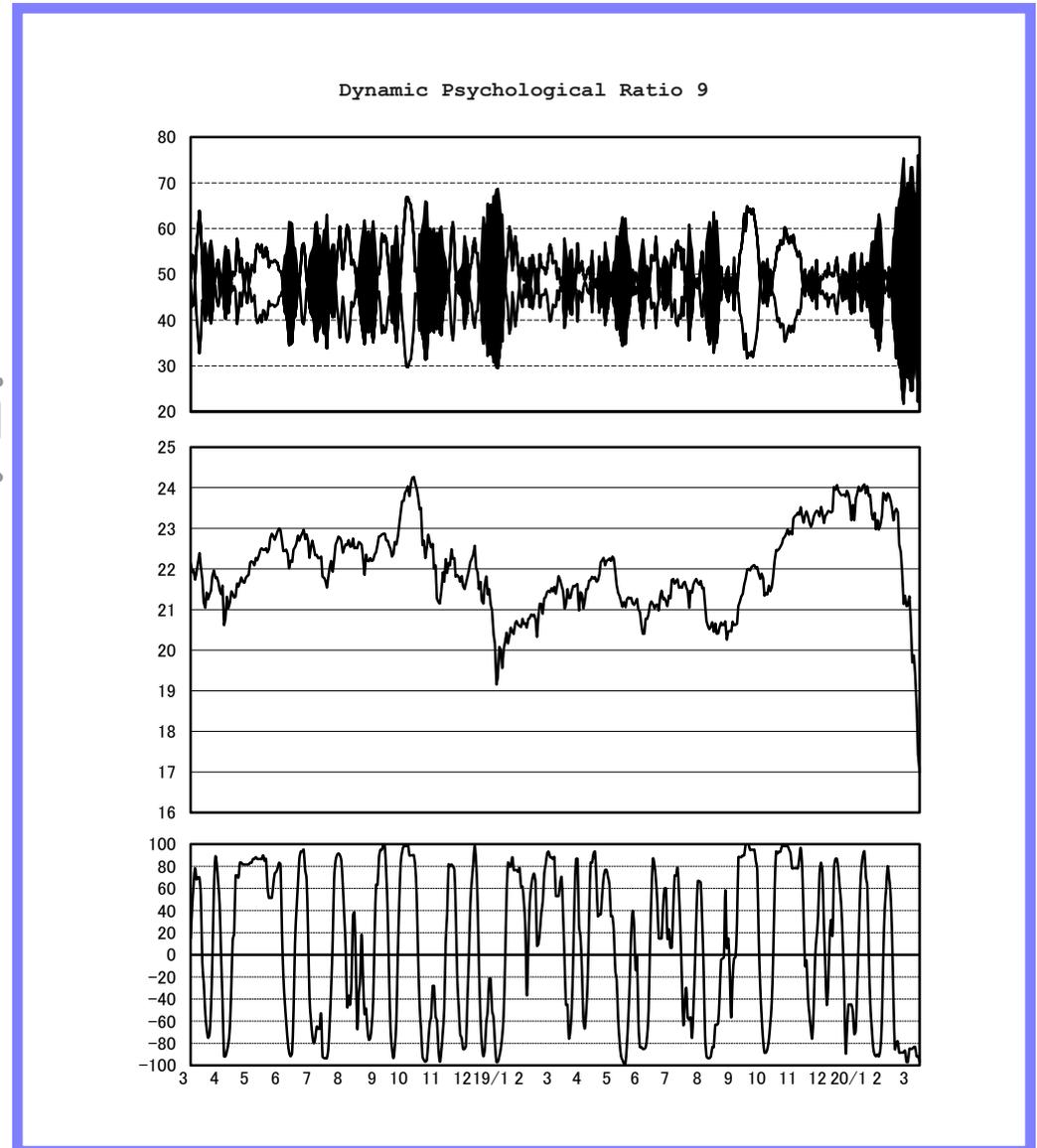
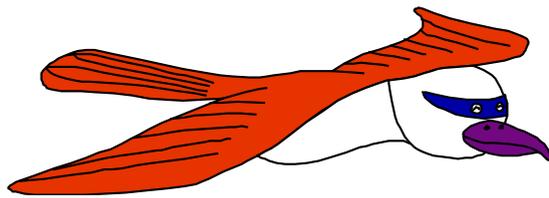
金融商品取引業者 北陸財務局長（金商）第3号

日本証券業協会加入

制作責任者： 営業業務部 調査課

# 情報シャトル特急便

第662号



上図は騰落銘柄数をベースとした独自のもので、黒の幅が拡大→買い場、白の幅が拡大→売り場

中図は日経平均株価

下図はRCI（9日ベース）で、 -80%ラインを上につき抜け→買い場

80%ラインを下につき抜け→売り場

# 大所高所

金曜の朝、家を出てから腕時計と手袋を持ち忘れたのに気がついた。NY ダウが急落となり、更に能登で震度5強の地震が起こったことで、日々の朝の習慣が完全に崩れてしまった。

わずか一週間で日経平均株価は3,318円下落することになり、数十年に一度起こるかという、リーマンショックに並ぶ歴史的な下げを体験することになった。この下落は今週になっても続き、16日のNYダウは過去最大の下げ幅を更新した。

リーマンショックのように今回は金融危機から発生した市場の下落ではないため、当時と根本的に違う点に注意したい。感染の拡大はどこまで続くか予測が難しいが、拡大にはピークがあり、どこかで必ず収束を迎え、市場の混乱も収まると考えたい。欧州の感染拡大が始まったことで、流行のピークは以前よりは予測しやすくなっている。

世の中の雰囲気がこの騒動でガラリと変わった。腕時計や手袋を忘れたのと同じく、上海デモも、環境汚染を訴えてきた少女の声も届きにくくなり、ESG投資という言葉も忘れさられたかのようだ。目の前の騒動に振り回されるのではなく落ち着いて平常心を保ち、周りを冷静に見ることを試みたい。 (nil admirari)

# ただ一筋

新型コロナウイルス感染拡大を受けて、世界各国の株式が暴落となっている。先週の日経平均株価でも下落幅3,000円を超える有様で、茫然自失の状況といえよう。各国政府が非常事態を宣言、人、物の封鎖拡大で急激な景気減速が起こり、経済危機に陥る恐れを懸念しての換金売りが加速していると思われる。

勿論、このような状況に対して各国も緊急的な対応策を打ち出しているが、一旦膨らんだ心理的不安は抑えきれしていない。トランプ大統領の「新型コロナウイルスの終息が8月程度までかかる」、日銀金融政策ではETFの年間買い入れ額の上限を6兆円から12兆円と倍増したものの「原則として従来の6兆円相当の買い入れを行う」旨の注釈が付けられたこと等、何もかもネガティブに捉えられている。

もはや、今回の下げはリーマンショック級以上で、1日で米ダウが23%も売られた32年前のブラックマンデーを思い出してしまう。ほとんどの銘柄が朝から大引けまで値が付かずのストップ安となった株価ボードは今でも鮮明に記憶に残っている。

ただ、当時との違いは「株は安い時に買う！」との姿勢から株式投資をスタートさせる個人投資家が急増していることだ。個別銘柄では、コマツ(6301)、キヤノン(7751)、オリックス(8591)、みずほフィナンシャルグループ(8411)などが目立つ。当面、乱高下の激しい相場が続くだろうが、先を長めに見据えて、冷静さを取り戻すことが大切な場面である。

(三感王)

# 当たり屋見参

前週末の米ダウ工業株 30 種平均は過去最大の上げ幅を記録した。また、米連邦準備理事会（FRB）が政策金利をゼロ～0.25%に1%引き下げることと発表、米国債や住宅ローン担保証券（MBS）を買い入れて資金を大量供給する量的緩和も再開する。これを受けて、今週は幅広い銘柄に買い戻しが入りそうと期待していたが、昨日はそうならなかった。

新型コロナウイルスの動向についてだが、震源地の中国では流行のピークは過ぎたとしている。しかし、米国での感染拡大に加え、ドイツ当局が感染拡大を防ぐためフランス、スイス、オーストリアとの国境の大部分を封鎖すると伝わるなど、事態鎮静化にはさらなる対策と時間がかかる状況だ。

そんななか、個別株では前回号でも取り上げた富士フィルムホールディングス（4901）に引き続き注目したい。コロナウイルスによる肺炎患者に投与すると発表した「アビガン」に注目が集まっている。同社の医療事業は富山化学工業が前身である。こんな時こそ、「くすりの富山」の技術を全国に知らしめてほしい。

（腹）

# 中堅の視座

世界全体の相場が大荒れだ。先物主導の機械的な売り買いが交錯し、一日の値幅が異常なくらい動いている。各国は必死に対策に乗り出し、経済減速を食い止めようと藻掻いている。日経平均はPBR1倍を大きく割れるなど、色々な視点から見ても割安さが目立っている。ただ、コロナの影響の不透明感や、各国の金融緩和的措置の限界感を考えると乗ろうにも乗れない人もいるだろう。

こんな時は、中長期的視野で主力銘柄の安いところをしっかりと仕込み、相場に振り回されないことが重要である。NEC(6701)は5G関連銘柄として注目されているが、それだけではない。量子コンピューターや顔認証システム、セキュリティーなど様々な顔がある。第3四半期の決算では、純利益前年同期比6倍強と目立った内容であった。コロナ発症前の内容ではあるが、コロナの影響が多少あったとしても、業績を伸ばしていくと期待している。ソニー、富士通に次ぐ構造改革銘柄の頭角を現してくるに違いないだろう。

荒れた相場。まだ目先振れがあり、今が一番の底値ではないかもしれないが、今は思い切って割安主力株に乗っていくべき時ではないだろうか。

(香る山)

# きらきら星

「落ちてくるナイフは掴むな！」

これは、急落時の投資は落ちてくるナイフを素手で掴みにいくようなもので、どんなに魅力的な銘柄でもナイフが床に落ちてから、つまり底を打ったのを確認してから投資すべきという相場格言である。

日経平均は一時1万6千円台に突っ込み、昨日時点の日経平均採用銘柄ベースのPBRは0.8倍（リーマンショック時も0.8倍）、平均予想配当利回りは2.9%である。東証1部騰落レシオ（25日移動平均）は、40.11%と売られすぎのサインを大きく超えてきている。米VIX指数に至っては82.69まで上昇し、リーマンショック時（80.86）を超えた。恐怖と絶望が支配しているがナイフは床に落ちている。

株式には価値がある。だから有価証券と呼ばれている。銀行預金に100万円を1年間預けていて利息はほぼ8円である。今こそ、株式を買うまたとない好機であることに間違いはない。

（丹青）

# デジタルの俯瞰

混乱が続く。世界は、経済のダメージを承知でコロナの感染拡大を防ごうと躍起になっている。そのダメージを最小限に抑えようと、各国中銀、政府が金融政策、財政政策で停止した経済活動の止血に動いている。しかし、米国の100bpの緊急利下げすら全てを見透かされていたように売られる。一体何を出せば上がるのか、絶望を覚える相場だ。今回は大きく外す可能性もあるが、恥を覚悟のうえで、テクニカルで下値メドを探してみたい。

日経平均を週足で見ると、2018年1月高値(24,124円)、同年10月高値(24,270円)、そして今年の1月高値(24,083円)の三点で、三尊天井を形成。その上で、2018年の安値19,155円を大きく下回ってしまったため、残念ながら2013年以来の上昇相場にいったん象徴的な区切りがついた形だ。

では、下値メドはどのあたりか。二度と使う機会はないとは思っていたが、リーマンショック時の値幅を参照すると、2008年3月の安値からの中間反騰での6月の戻り高値が14,489円。ここから2009年3月安値7,054円までの下げ幅が7,434円。これを今年の高値24,083円から当てはめると16,649円となり、このあたりがいったんの下値メドということになる。

現在既に接近していることから分かるように、相場は、相当に悪材料は織り込んでいる。クレジットリスクにまで手がかかるとつらいが、相場が織り込んでいないものがもう1つある。コロナの感染拡大が止まることだ。そこで初めて、各国の全力の金融&財政政策が、私たちにやや遅い春の訪れを知らせることになるだろう。(パブリカ)

# アナリストによる北陸企業便り

(近藤浩之)

## <セーレン>

2月、2020年3月期の会社予想を上方修正した。営業利益の見通しは、昨年8月に米中貿易摩擦や世界の自動車市場の低迷を映して下方修正したが、予想したほど悪影響が及ばず、同11月、今年2月と上方修正した。

中国では主に「車輻資材」を手掛け、新型コロナウイルスの感染拡大により停止していた生産を2月10日に再開した。しかし、日系自動車メーカーの生産活動は停滞しており、需給が正常化するにはなお時間がかかる。海外連結子会社の決算日が12月末のため、悪影響の多くは来期業績に含まれることになる。加えて来期は、景気減速、自動車市場の低迷が響きそうだ。一方で、「車輻資材」のほか、「エレクトロニクス」「メディカル」で新規案件の受注が期待される。これらを合わせて、来期は5%程の営業減益を予想する。

今後は、さらなる事業の多角化に取り組む。合成皮革「QUOLE (クオーレ)」やスーパー繊維の用途拡大、繊維製品のデジタルプロダクションシステム「Viscotecs (ビスコテックス)」の金属・プラスチック・革・ガラスなどへの展開、パーソナルオーダーブランド「Viscotecs make your brandbrand (ビスコテックス メイク ユア ブランド)」のBtoB展開、宇宙産業への進出—などを進める。

株価は相場全体の急落に連れて下落しており、予想PERには割安感がある。

# 罫線中僧

## 6758 ソニー

週足



日足



出所：ブルームバーグ

新型コロナウイルスの感染拡大が世界規模で経済活動を大きく減速させ、市場は大きく動揺しマネーが急収縮に陥っている。日経平均は、世界で協調した政策対応のもと、感染者拡大のピークアウトをみながら本来の景気サイクルのトレンドに戻る時期をさぐる展開が続く。ワクチン開発なども含めた新型コロナ封じ込めが景気対策となる状況下で今期企業業績の下方修正圧力は回避できないとはいえ、5Gなどの技術革新のもと新しい需要を創りうる企業に注目したい。

今回は半導体がモバイル向けに絶好調のソニーを取り上げる。連日窓を開けながら下っ放れ3空叩き込み線を連続して出しており、総悲観のなかで吐き出させる大量の売りが吸収されて底を形成しつつある。 (しんのすけ)

\* 情報シャトル特急便は、投資家の参考となる情報提供を目的としておりますが、投資にあたってはご自身の判断でなされるようお願いいたします。

国内株式等の売買取引には、約定金額に対して最大1.201750%（税込）（1.201750%に相当する金額が2,612円未満の場合は2,612円（税込））の委託手数料をご負担いただきます。株式は、株価の変動により損失が生じるおそれがあります。

非上場債券を当社が相手方となりお買い付けいただく場合は、購入対価のみお支払いいただきます。債券は、金利水準の変動などにより価格が上下し、損失を生じるおそれがあります。

投資信託にご投資いただくお客さまには、銘柄ごとに設定された販売手数料および信託報酬等の諸経費等をご負担いただきます。投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資1単位当りの価値が変動します。したがって、お客さまのご投資された金額を下回ることもあります。

外国株式・外国債券等は、為替相場の変動などにより損失が生じるおそれがあります。

商品ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、その商品等の上場有価証券等書面、契約締結前交付書面やお客様向け資料をよくお読みください。